

經濟論叢

第125卷 第3号

哀 辭

故 穂積文雄名誉教授遺影および略歴

フランス貴族商業論のひとこま 補論	木 崎 喜 代 治	1
比較生産費説・国際価値論・貿易利潤(中)	本 山 美 彦	20
ディルクの剰余価値論(上)	岸 徹	47

19世紀末ドイツにおける「本源的蓄積」と

土地所有(2)	加 藤 房 雄	66
---------------	---------	----

追 憶 文

先生の思い出	伊 達 功	84
穂積文雄先生を偲ぶ	桑 田 幸 三	92

経済学会記事

昭和55年 3 月

京 都 大 学 經 済 學 會

II ソ連経済における地域別固定ファンド構造

京都大学院学生 田 中 宏

(報告要旨)

1970年代に入り、ソ連では「地域」や「地域構造」をめぐる研究や政策提案がさかんになっていることを考慮し、ソ連経済がもっている構造的な内的矛盾を全体として地域的断面の視点から掌握すること、これが本報告の課題である。その場合、理論の演繹によってこれを解明することを排除し、地域構造の総体に関する入手可能な統計等の資料を加工、整理、分析することによって解明することが本報告の特徴である。加工、分析の際には、経済地区区分を基礎に、共和国区分を加味した26地域区分が採用されている。報告の構成は次のとおりである。

はじめに

- I ソ連経済の地域別投資構造
- II ソ連経済の地域別固定ファンド構造
- III ファンド装備度の地域別構造
- IV 固定ファンドおよび国民所得の地域別構造

まとめにかえて

ソ連経済の地域別固定ファンド構造の発展を概観してみると、投資・固定ファンドの地方分散化傾向の貫徹によって、先進的地域の独占的地位と重工業特化地域優先という特徴をもつ戦前型地域構造が、第2次大戦を経験し60年代初頭を画期として、以上2つの特徴をもちながら将来的にはそれを解消する条件が一定形成されている60年代地域構造に移行したこと、そしてこの点に現段階のソ連経済が到達していることが明らかにされる。60年代地域構造はファンド装備度の側面からは、発展の異なるヨーロッパ・ウラル部——シベリア・極東部——中央アジア・カザフスタン部の三重の地域構造をもちつつ、地域間格差の解消を展望しているが、蓄積された基本的インフラストラクチャーの側面からはヨーロッパ・ウラル部と中央アジア・カザフスタン部、シベリア・極東部との間には大きな格差があり、平準化への困難が明らかにされる。また国民所得の生産——分配の地域構造の側面からは、高い生産性と経済発展水準をもつ先進的地域で生産された国民所得が後進的なシベリア・極東部と中央アジア・カザフスタン部に分配され、そこでの開発と経済発展を推進し、地域間平準化の歩みを保障している構造が解明

される。このような地域構造の変化と平準化の中で、固定ファンドが絶対的にも相対的にも増加している地域、特にシベリア・極東部で、固定ファンド効率が他の地域よりも低位となっていることがわかる。以上、価値的視点からの分析は、ソ連の経済発展路線を素材的に保障するはずの固定ファンドの地域構造の変化と平準化の進行が同時にソ連経済の発展の抑制作用の要因ともなっているという矛盾関係を導きだす。これが本報告の主要な結論である。